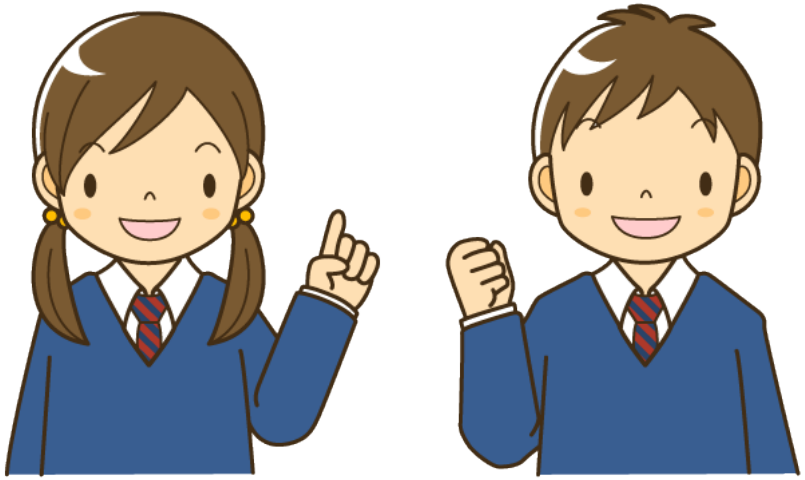
校内研究の推進・充実講座
（校内研究を充実させるために重要なこと）

校内研究の進め方・まとめ方



佐賀県教育センター

はじめに

研究･･･よく調べ考えて真理をきわめること

（広辞苑より）

なぜ校内研究を行うの？

義務的側面･･･

教師の研修に対する努力義務が法的にも明らかになっており、学校づくりにおける研究・研修の位置付けが明記されている

社会的側面･･･

児童生徒が抱える問題を理解し、適切に対応するためには、教師の指導力の向上、様々な情報収集、適切な判断が必要になる

使命的側面･･･

教育の理想の実現に向けて、個々の教師が研さんを積み、資質・能力を向上させるためには、研究・研修は欠かせない

校内研究の目的とメリット

目的

育てたい児童生徒像を明確にし、それに対して教師がどのような実践的な力量を付ければよいのかを研究し、その成果を日々の教育活動に生かすこと。

メリット

- ○　各学校が抱えている課題の解決に役立つ
- ○　各学校の教育活動を活性化することができる
- ○　研究成果を日常の指導に反映させることができる
- ○　教師集団のまとまりが出る
- ○　教師の指導力が高まる
- ○　児童生徒の変容を見る視点を増やすことができる
- ○　教育研究の方法を習得できる　　など

校内研究における大切な視点

日常化

〇日常の教育活動を見つめた研究・研修を目指す
〇毎日の学習指導や生徒指導に直結させる

協働化

〇他者の実践から謙虚に学び合う姿勢をもつ
〇問題提起し合う機会をつくる
〇研究組織の活性化を図る

実践化

〇理論と実践をつなげる
〇児童生徒を意識する
〇一般化できる実践を目指す

継続化

〇実践と理論を積み重ねる
〇研究の成果を毎日の実践につなげる

校内研究における大切な視点

日常化

協働化

実践化

継続化

＋

効率化

・研究授業、授業研究会の回数や内容の見直し

・研究紀要、各報告書、まとめなどの資料作成の在り方の検討

など

研究主任の役割

校内研究を企画・運営(マネジメント)する

- ○　研究主題設定の準備
- ○　研究組織の構成案作成
- ○　研究計画案作成
- ○　研究資料の収集や効果的な資料提供
- ○　研究会や研究授業の運営
- ○　研究紀要の編集（効果的な「まとめ」の工夫）

など

研究主任の役割

○「　プランナー　」としての役割

校内研究の方向性を示し、目的や意義の共有化を図る

○「ファシリテーター」としての役割

連絡・調整を行い、校内研究の活性化を図る

○「　メンター　」としての役割

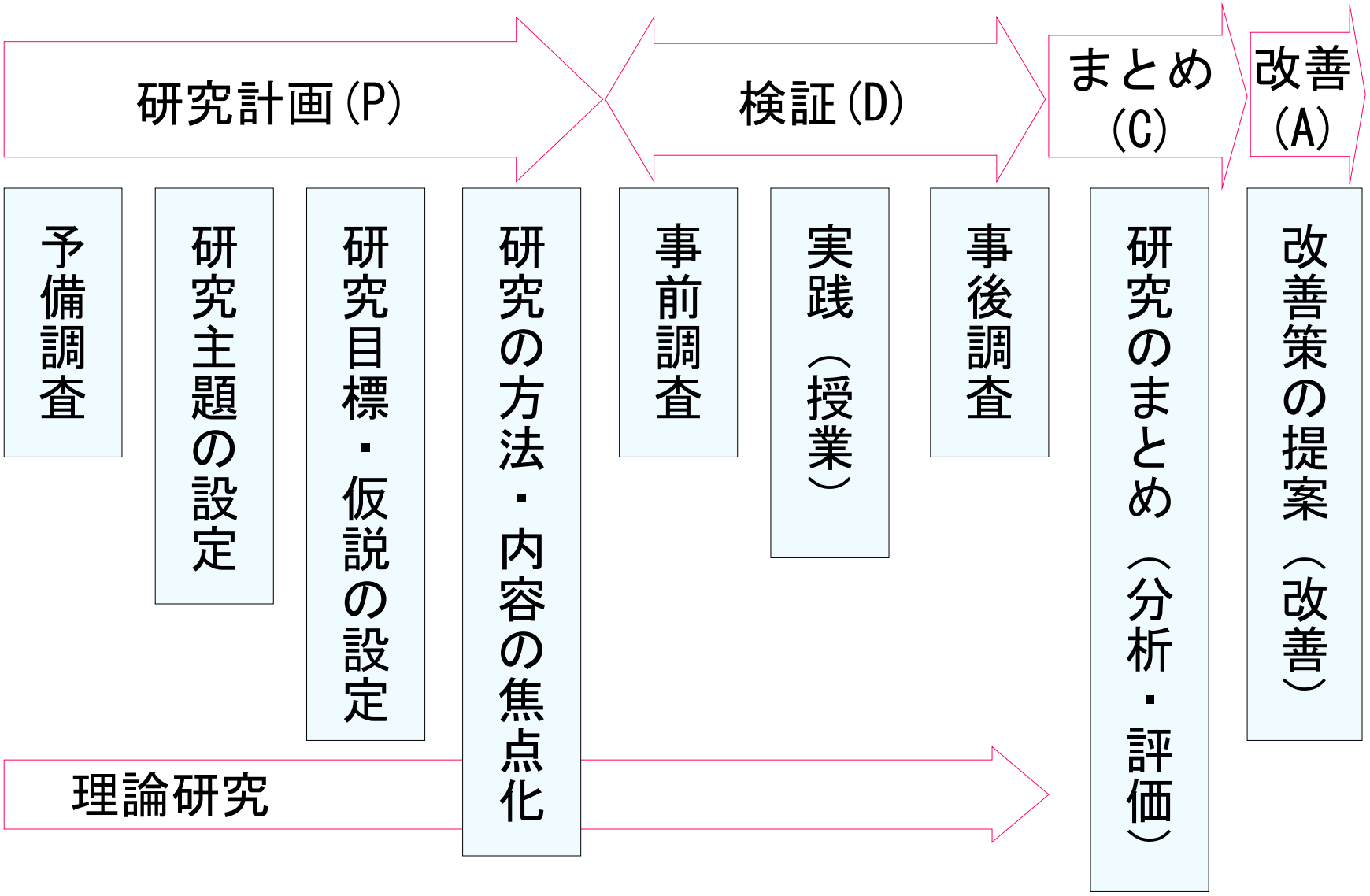
教師をサポートし、育成する

研究主任が心掛けること

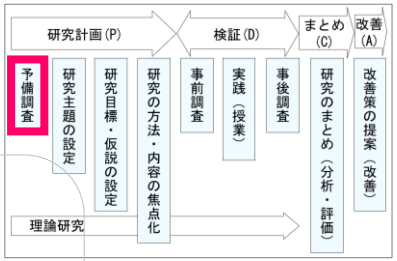
- ○　研究の目的や意義の共通理解を図る
- ○　一人一人が研究の一端を担う組織づくりに努める
- ○　効率的・効果的な研究の企画・運営を目指す
- ○　教師がやりがいを感じるように具体的な提案をする
- ○　研究推進委員会の会議内容の広報をする
- ○　報告、連絡、相談の意識を強くもつ
- ○　多様な観点から情報収集を行う
- ○　外部からの刺激を取り入れる
- ○　今後に生かすために共有できる資料を保存する

など

研究の進め方（基本的な流れ）



予備調査



外からの要請
教育的課題として解決が求められるもの

「学習指導要領」　「佐賀県教育施策実施計画」　など

円が重なる部分の
研究になることが
望ましい

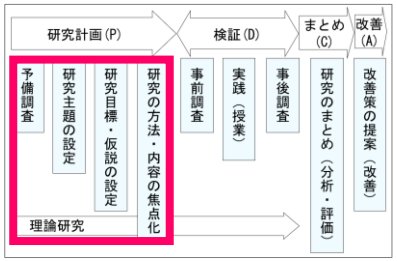
児童生徒の実態
佐賀県または本校

「学習状況調査」
「日頃の実践の中での
調査や見取り」　など

教師の実態
実践経験を基にした
成果と課題

「これまでの成功体験」
「これまでの失敗体験」　など

研究主題・研究目標・研究の仮説



研究主題

↓

研究目標

↓

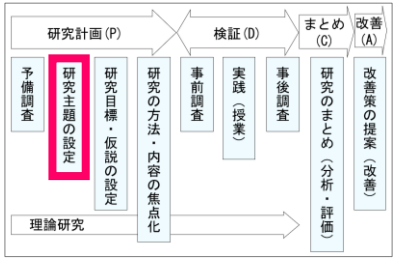
研究の仮説

↓

各学年　各教科・領域
における児童生徒の目指す姿

徐々に具体的にしていく

研究主題に含まれる３つの要素



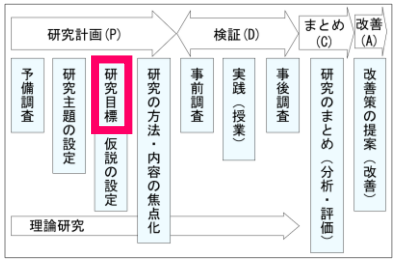
- ○ 研究の目的（目指す姿）　「～を目指す」「～を育てる」　など
- ○ 研究の内容（対象の領域・分野）「～における」「～の研究」　など
- ○ 研究の方法（手立て）　「～を通して」「～による」　など

例：小学校国語科

小学校国語科における指導事項の有用性の実感と、手引きによる書く力の育成

研究目標に含まれる３つの要素

（主題を具体化）

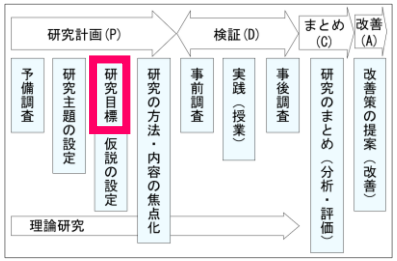


- ○　研究の目的（目指す姿）　「～のために」「～を育てる」など
- ○　研究の内容（対象の領域・分野）「～において」「～の在り方」など
- ○　研究の方法（手立て）　「～を通して」「～の工夫を行い～」など

例：小学校国語科

「書くこと」の領域において、自分が伝えたいことを適切に書き表すことのできる児童を育成するために、指導事項を習得させる指導の在り方を探る。

研究の目的で意識すべきこと



目標に示されている「目指す児童生徒の姿」の具体を共有する

例

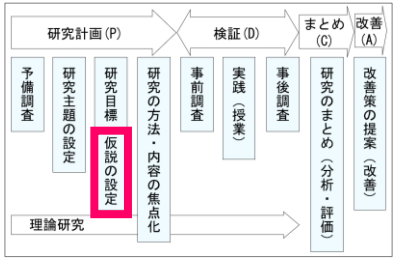
「主体的な学び」
「確かな学力」
「心豊かに」　など

これらの言葉のみで、具体的な姿のイメージを共有することは厳しい
具体を明らかにしておくことが重要

具体的な姿のイメージが明らかになれば･･･

- ○　検証方法の具体化
- ○　発達の段階での系統化
- ○　研究方法（手立て）の具体化と多様化

研究の仮説の設定



研究の仮説は、研究の見通し、予測
ある程度客観性をもつ、結果についての仮の判断

（検証計画の内容や方向性が定まる＝仮説が研究を左右する　ともいえる）

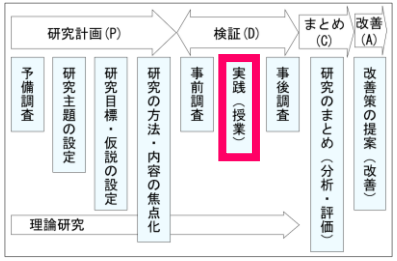
研究の仮説に含まれる３つの要素（研究の見通し、予測）

- ○ 期待される姿・結果　「～なるであろう」など
- ○ 研究の場・対象・範囲・内容　「～において」など
- ○ 研究の方法・手立て　「～すれば」など

例：小学校国語科

中学年の「書くこと」の領域における学習過程の「構成の検討」段階で指導事項の有用性を実感させ、「考えの形成、記述」から「推敲」に至る過程において指導事項やその用例を取り入れたモデル文を手引きとして児童が見返すことができるようにすれば、自分が伝えたいことについて、相手や目的を意識して構成や文末表現を工夫して書き表すことができるだろう。

実践を行う上での留意点



○　いつどのような手立てを講じるのか

→目標または仮説を基に、具体的に考える

○　いつどのような方法でデータを収集するか

→検証計画を基に、具体的に考える

○　児童生徒のための研究になっているか

→児童生徒に、過度の負担をかけない

→児童生徒が、手立てに対して有用感をもつことができるようにする

○　活動は、普遍性のあるものになっているか

→自分しかできない（他の誰かはできない）ものにならないようにする

→複雑な手順を踏む（他の誰かは再現しづらい）ものにならないようにする

校内研究の深め方

○　少人数の集団協議の場を設定する
　　（ワークショップ型など）

○　目的に応じて様々な形を試す
　　（いくつか組み合わせることも有）

○　ファシリテーターの役割を共有する

※ファシリテーター

発言や参加を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりして、相互理解や合意形成、課題解決、アイデア出し等を支援促進する役割を担う人

ワークショップ型研修のメリット

- 協議の内容、過程を可視化（視覚化）できる
- 参加者の会話量が増える
- 参加者の心理的距離が近くなる
- 参加者が当事者意識をもつことにつながる
- 次につながるキーワードが見付かる
- 焦点化された協議ができる

など

ワークショップ型研修の方法例①

「指導案拡大法」

【目的】学習過程の相互関係を明確にする

その場で互いの意見を把握することができ、研究授業を参観しながら、授業展開に従って、教師や児童生徒の活動に応じた細やかな分析をすることができる方法

イメージ図

ワークショップ型研修の方法例②

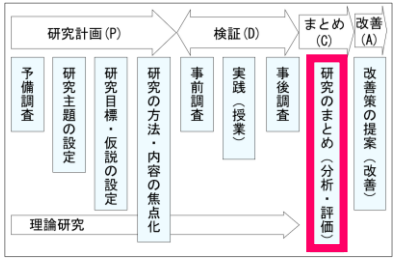
「ＫＪ法」

【目的】課題の分類や分析を行う

様々なアイデアを出し合い、それを整理し、相互に関連付けていくことにより、それまで思い付かなかったような新たな発見を引き出そうとする方法

イメージ図

研究のまとめ



成果と課題を明らかにし、価値を確認

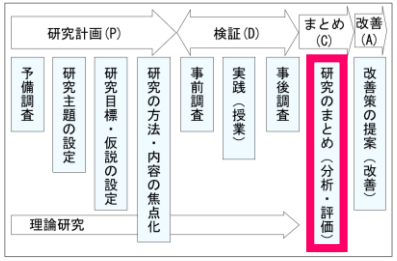
研究主題に挙げた目指す児童生徒像につながったか
手立て投入後の児童生徒の姿が、期待される結果になったか
期待する児童生徒の姿は客観的に評価できるか

などの視点が重要

まとめの内容

- ○　何を明らかにしようとしたのか
- ○　どのような方法を講じたのか
- ○　目標に迫れたのか
- ○　どのようなことが分かったのか
- ○　どのような課題が残ったのか

研究のまとめの流れ



「研究目標」の内容・方法で行った実践
「研究の仮説」の内容で手立てを講じた実践

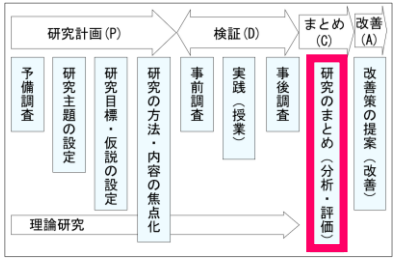
実践の記録
実践により収集した資料
実践前後に調査した資料

などの分析・考察

「研究の仮説」の「期待される効果」を検証する
「研究目標」の「達成状況」を検証する
「研究の成果と課題」を明らかにする

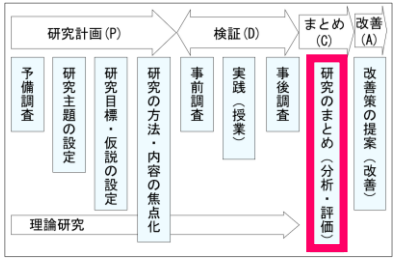
左記の一連の手順を説明（文章化）する

必要なデータの計画的な収集



- ○　授業研究会の記録
- ○　授業の動画・写真
- ○　授業記録（全体の様子、抽出児童生徒）
- ○　調査（アンケート、学習状況調査、ＣＲＴ、評価問題など）
- ○　面接・対話の記録
- ○　作品分析の記録　など

データの分析・考察



手立てに効果が見られたのかを検証し、
目標が達成されたかどうかを判断するには

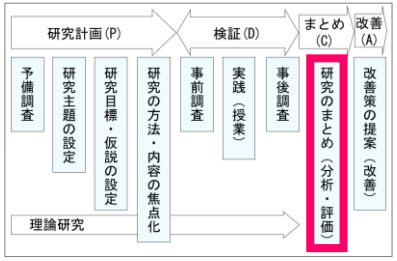
判断する目安（指標）が必要

判断の目安を設定するために

○　目指す児童生徒像が具体的に設定されているか

○　身に付けさせたい力が具体的になっているか

分析・考察のポイント



○　質的・量的に分析・考察する

○　事実と解釈を明確に分ける

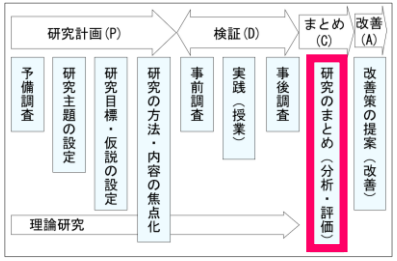
○　肯定する事実のみで考察しない

○　仮説の手立てと効果についてのみ示す

○　単なる集計ではなく、分析（要素の抽出）を行う

など

個人の変容を示す（事前と事後の比較）



例

（イ）「思考・判断・表現」

抽出生徒Ａのワークシートの記述の変容を基に考察しました。抽出生徒Ａは、自分なりの考えをもつことはできますが、根拠をもって自分の考えを表現することに苦手意識をもっている生徒です。資料１は６月以前の記述で、このときは、多面的・多角的な視野をもつことができていませんでした。

☆過密地域と過疎地域の課題解決のための方策について自分の考えを説明しなさい。

過疎の地域に建物を作る

資料１　抽出生徒Ａのワークシートの記述（５月）

７月の「産業の発達と幕府政治の動き」の授業実践では、単元のはじめに、江戸幕府の財[illegible]的状況に陥っていったことを示し、問い返しをしなが[illegible]という単元を貫く学習課題を設定して授業を進めた。[illegible]数の資料を基にワークシートに合わせ[illegible]えるように促したことにより、自分の考え（資料２の枠囲み部[illegible]の実線部）を示して記述することができました。

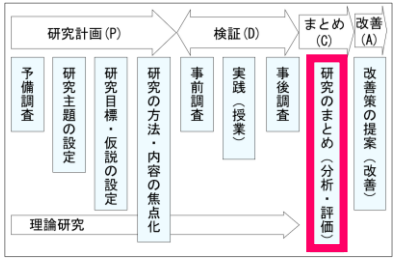
抽出生徒の記述の変容

田沼の政治は田沼意次が行ったものである。田沼意次は老中となり10代将軍の信頼を得て、幕政を担当した人物である。改革の内容は商工業が株仲間を奨励したり、長崎での貿易を活発化させるために、銅の専売制の実施や俵物の輸出拡大のため蝦夷地の調査を行ったような内容である。また、印旛沼の干拓事業も行った。この改革の結果は1782年天明のききんで百姓一揆や打ちこわしが起こり、意次は老中を辞めさせられ失敗という結果になった。

抽出生徒の
プロフィール

抽出生徒の
記述の変容とその分析

個人の評価を全体で示す



例

【分析】

【実践】では，Ｌ児を中心に授業の流れを追ってきました。ここでは，全児童のワークシートを基に行った分析と，授業を参観した方々から頂いた意見について述べていきます。

○　全児童のワークシートより

まず，全児童のワークシートを分析した結果について述べていきます。児童のワークシートを，①本時の目標にあった学習問題を立てることができていたか，②適切な実験結果を記録しているか，③妥当な考察を行うことができているか，の３点について，分析をしていきます。

評価

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①に対する評価	◎	◎	△	△	◎	◎	○	△	◎	○	△	◎	◎	◎
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	L
①に対する評価	◎	◎	◎	△	◎	△	○	△	△	◎	△	◎	△	△

判定基準

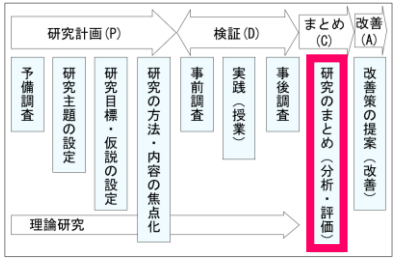
【判定基準】◎：同じ体積である，物の種類が違う，本当に重さが違うか，の３点を明確に記述した学習問題を立てている。

○：同じ体積である，物の種類が違う，本当に重さが違うか，の３点を意識していることがうかがえる学習問題を立てている。

△：同じ体積である，物の種類が違う，本当に重さが違うか，の３点のどれか，あるいは全てが欠けた学習問題を立てている。

「①本時の目標にあった学習問題を立てることができていたか」に関する評価

集団の変容を示す（事前と事後の比較）



例

（イ）Ｂ校第５学年

ａ　調査問題の結果から

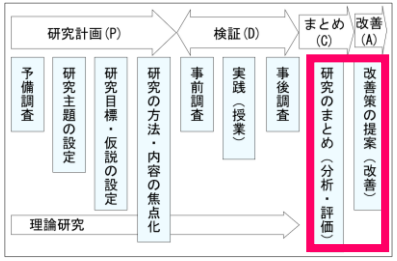
「知識・技能」「思考・判断・表現」については，佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果から分析しました。**表４**はその結果を示しています。

表４　佐賀県小・中学校学習状況調査【12 月調査】を基にした調査問題の結果

評価の観点	出題の趣旨		正答率（%）	
	６月	11月	６月 n=27	11月 n=25
知識	日本の南端の島が沖ノ鳥島であることを理解している	工業地帯や工業地域が集まっている所が太平洋ベルトであることを理解している	85%	72%
技能	日本の位置を地図から読み取ることができる	資料から，大工場と中小工場の工場数の違いを読み取ることができる	93%	92%
	日本の位置を地図から読み取ることができる	資料から，大工場と中小工場の生産額の違いを読み取ることができる	96%	100%
思考・判断・表現	資料を基に，山地に挟まれた高松市の降水量が少ない理由について説明することができる	資料を基に，運搬船で輸送する理由について説明することができる	7%	28%

n
全体数

研究の成果をまとめるときのポイント



どのような手立てが効果的であることが分かったかについて述べる

例

①…の面では、…するために、…したことが有効であった。

②…を育てるためには、…が効果的であることが明らかになった。

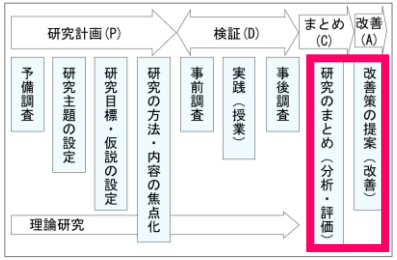
③…の在り方として、次のことが大切であることが明らかになった。

…ように、…し、…を行うこと。

…の場では、…させること。

成果に書いてあることの根拠が、どこに示されているか

研究の課題をまとめるときのポイント



実践の中で不十分だった点を問題点
として取り出す
更に高めたい点を課題として取り出す

例

①…の面では、…の際、…であった。…際には、…していく必要があると考える。【問題点型】

②本研究で指導の中核とした…は…であった。今後は、もっと…ような有効な手立ての開発を図りたい。【発展型】

課題に書いてあることの根拠が、どこに示されているか

さいごに

ＰＤＣＡサイクルを意識して
全員で取り組みましょう

特に意識してほしいこと

○　教師全員で、児童生徒の実態を分析・考察する

○　考察した結果を基に、研究主任、研究推進委員会で「研究の概要（案）」を作成する

○　教師全員で、「研究の概要」の内容を検討する

「研究の概要」の作成を通して、教師全員のベクトルを同じ方向に向ける